

令和6年度 脱炭素事業に関する村民説明会【草尾地区】開催要旨

日 時	令和6年7月10日（水） 午後6時30分～午後8時02分
	（第1部 村政懇談会：午後6時30分～7時15分） （第2部 脱炭素事業：午後7時15分～8時02分）
場 所	草尾交流センター
参加者	23名（村民20名、議員3名）

（第2部 脱炭素事業：午後7時15分～8時02分）

【質問者】

違約金はどのくらいかかりますか。

【村長】

17年と10年プランがありまして、太陽光パネルは17年で耐用年数が償却することになっており、違約金は残価に対して個々に計算して算出することになります。17年でゼロになる計算です。

【エコロミ】

各ご家庭には7kw程度の太陽光パネルを設置する予定で、蓄電池は16kWh程度のものを設置予定でして、設備工事費はおよそ400万円かかります。それを17年間かけていくさかてらすが回収していくことになります。ただ、国からの補助金が3分の2ありますので、実質的ないくさかてらすの負担である残りの3分の1を回収していきます。ですので、単純計算にはなりますが、130万円から140万円を17年で均等割すると年間7～8万円になり、17年でご契約いただき7年で解約した場合は、残り10年間で70～80万円の違約金をお支払いいただくイメージです。

【質問者】

契約者が亡くなった場合はどうなりますか。

【エコロミ】

そのような場合であっても、解約される場合は違約金を払っていただく形になります。ご高齢の方向けには10年プランというものをご用意させていただきました。

【質問者】

いくさかてらすの毎月の売上から保険のような形で、違約金を補填するような仕組みを作れるのではないかと思います、そのようなことは考えていませんか。

【エコロミ】

相互扶助という考え方もあるとは思いますが、現時点では補填のような仕組みは考えていませんでした。そうはいっても皆さんに出来るだけご加入いただいて再生可能エネルギーを使った村にしていきたいという思いもあり、資料6ページの平均収支表の中にありますとおり、一般家庭についてはポイント還元するなど少しでも寄与したいということも考えています。設備が壊れたときの保険は当然いくさかてらすとしては加入しなければいけないので、その損害保険を使って壊れた時の対応はしますが、契約者の方がいなくなってしまったものに対する補填のような仕組みについては考えていません。

【質問者】

違約金の話を聞いて二の足を踏んでしまう人などへの対策を考えないと、契約者が少なくなりそうですが、いかがでしょうか。

【村長】

2030年までに民生部門のゼロカーボンを目指す上では、契約者を増やさなければいけませんので、解約しないようにしていただき、少しでも今よりお安い電気料金で生活でき、停電のときには蓄電池で電気が賄えるということで、より一層レジリエンス強化にもつながる、といった点もご理解いただきながら契約者を増やしていきたいと思っていますところ です。

【質問者】

違約金については、揉める場合も出てくると思います。

【村長】

その点についての検討もこれからしていきたいと思っていますし、相互扶助の関係でも何かいい方法がないか、まずはこの価格と違約金でスタートさせていただき、見直しをしなければいけないところは見直しをしながら事業を進めていきたいと思っています。個人の方とは9月頃から契約を進めていく予定で、ご指摘いただいたことなども考慮して契約書を作り、ご理解いただいたうえで契約していただくように努めていきたいと思っています。

【質問者】

防災の観点から質問ですが、屋外の太陽光パネルで火災が起きた際に、消防が駆けつけても放水できず、全焼するまで放っておくしかなかったというニュースを見ました。防災面の対策は万全なのでしょうか。

【総務課長】

太陽光パネルの火災対応については松本広域消防局にも確認しているところですが、危険が伴うことですので、消防団は基本的に消防局の指示によって動くようになります。太陽光パネルの火災は今後増えていく可能性があることから、消防局でも対策は考えているようです。具体的にどのように対処するかはまだお聞きしていませんが、そういった点も含めて検討させていただいております。

【村長】

類焼を防ぐための活動は消防団でもできますし、当然広域消防も来ていますので、役割分担をして消火活動に入ります。機能別消防団も昨年度から作っておりますので、なるべく火災を大きくしないように取り組んでいきたいと思います。

【総務課長】

太陽光パネルの火災についてはまだ件数も少なく、知見も把握されていない状況ですので、国からも今後の指針などが出てくれば、消防署や消防団で訓練をすることも考えられます。そういったことを今後十分検討していきたいと思います。

【質問者】

いくさかてらす小売10年プランについて、蓄電池のみの契約ということですが、蓄電池には太陽光パネルで発電した電気が溜まると思っていました。蓄電池のみを置いている事例は全国的にどのくらい存在しているのでしょうか。また、蓄電池に溜まっている電気は何の電気が溜まっていて、蓄電池から使った分の電気代はどうなるのでしょうか。

【エコロミ】

蓄電池のみ設置の事例は、あまりありません。お宅の太陽光パネルで発電した電気をなるべく溜めて使うというのが本来だからです。ただ、いくさかてらす設立の趣旨は太陽光パネルの設置そのものではなく再生可能エネルギーの有効利用であり、今年もあったように停電時の安心に役立つような、蓄電池があれば不安な気持ちを少しでも和らげられるのではないかという考えもあります。事業性は良くないのですが、村のレジリエンスを高めるために蓄電池のみのプランを作ってみたという次第です。蓄電池に溜まる電気に関しては、電気の小売契約自体が全ていくさかてらすになるので、いくさかてらすから供給され

ます。電気代も、蓄電池から使うものを区別しているわけではなく、電線から来る電気と同じになります。

【質問者】

ビニールハウスなどで業務用に使いたい場合のプランはありますか。

【エコロミ】

業務用の電力プランは今後検討したいと考えています。公共施設も同様ですが、施設は家庭とほぼ同じ程度を想定している一方、ビニールハウスの場合は現状かなり電気料が安くなる可能性があると思っており、どのようにするか検討しているところです。現状について全体的に把握できていないので、ビニールハウスや防霜ファンなどの実態を調査しながら、いくさかてらすの事業収支に見合ったプランを作りたいと考えています。

【質問者】

蓄電池のみで契約した場合、蓄電池に入る電気はいくさかてらす以外の電気を溜めることができるのではないかと思います。自分で太陽光パネルを買ってきたりペロブスカイトのようなものが普及して使えたりすれば、蓄電池を勝手に使ってしまうと考えますがいかがでしょうか。

【エコロミ】

できれば太陽光パネルと蓄電池はセットでお願いしたいです。あまりそのような使い方は考えてほしくないのが正直なところです。蓄電池のみ設置したあとに太陽光パネルの設置といった場合も、いくさかてらすでの設置は無償になりますので、ぜひ依頼してほしいと思っています。環境省の補助金が5年間なので、できれば5年間のうちにそういうご依頼が来ることを期待しています。また他の地区でもご意見が出たことで、何かの都合でこの5年間に設置できなかった場合の6年目以降も、例えば2030年になってもこういう仕組みを考えてほしいということについては、今後検討していきたいと思っています。

【質問者】

外部評価委員会はどのような仕事をするのでしょうか。報告書はどの程度の頻度で出されるのでしょうか。

【村づくり推進室長】

外部評価委員会は、年度の間と終わりに事業の進捗状況や、事業を進めるにあたって幅広くご意見をいただく機関として設置をしたところです。5月に令和5年度分の外部評価委員会を開催し、その内容につきましては準備ができ次第、村のホームページで公表する予定です。

（村HPの村づくり推進室「脱炭素社会に向けた取り組みに関すること」のページにて公表済み）

【質問者】

次の村長選で村長が変わった場合、代表取締役は変わりますか。

【村長】

村が筆頭株主ですので、村長が変わった場合は変わることになります。

【質問者】

契約した人に株を買ってもらうような形にすれば、共同で責任を持つという意味で面白いのではないのでしょうか。

【村長】

具体的な検討は行っていないですが、運営上の検討事項の一つとして取り組んでいきたいと思っています。